Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構　ブラウンバッグセミナー

Brown Bag Seminar No. 138

2024 4.24(水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15	◆演者紹介
12:15-12:40	◆プレゼン
12:40-12:50	◆質疑応答

オンライン (Zoom)

登録はこちら

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_dZLLqYsPSM6jeJ7sY5oYIA

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

「荒野のユートピア」という視座：満洲都市空間再考

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

3 すべての人に健康と福祉を　4 質の高い教育をみんなに　10 人や国の不平等をなくそう　11 住み続けられるまちづくりを　16 平和と公正をすべての人に

Key Words

旧満洲　植民地空間　在地社会　長春　歴史地図

楊 昱 講師

九州大学 人文科学研究院 哲学部門

中国出身。北京大学を卒業した後、大学院で渡米。コロンビア大学（米国）美術史博士学位（2018）、博士論文執筆の間、京都工芸繊維大学、東京大学、そして東洋文化研究所で訪問研究員として滞在しました。研究テーマは、旧満洲の建築・都市空間を初め、二十世紀東アジアの視覚文化や都市空間に至ります。2020 年から九州大学人文科学研究院広人文学コースに入り、2023 年から Anton Schweizer 教授と共同担当する研究プロジェクト " 海岸·美術史の共有と分断 -「東アジア地中海」地域におけるヒト、モノ、と思想の移動と交流 "（二年間）は、ゲッティ財団研究助成受賞しました。

https://www.imapkyudai.net/yu-yang;

https://www.imapsharedcoasts.com/people

旧満洲の建築史と都市空間の研究は、満洲国（1932 ～ 1945 年）の公共建築と都市計画に焦点を当て、日本人が実験的、そしてユートピア的な都市を建設したことを強調している。最近の歴史研究がより複雑で激動する在地社会の力関係を明らかにしたにもかかわらず、この主流の見方は長い間異議を唱えられなかった。

本発表は、この分野の現状をまとめた上、時間的および空間的限界によってもたらしたユートピア的で理想化された見解を分析する。そして、長春市（後に満洲国の「新京」とされた）を事例として取り上げ、1932 年の満州国建国以前の時代に焦点を当て、新たに発見された歴史的地図を分析することで、長春の都市空間の形成と発展における重要な段階を明らかにし、植民地社会と地域空間の理解に新たな視座を提示する。